

婦人と子ども



良夫賢父の教育

統計の上から見て、果して事實か否かは分らぬが、近來の新聞紙の傳ふる所に由ると、離婚の殆んど五割は女學生であつて、然かも其離婚の申出は何れも女子の方から出て居るといふのである。吾等は此記事を見て一汎の人、殊に教育の任にある人、及子女養育の任を負へる父母たるものに向つて、須らく慎重なる注意を促したいのである。

勿論 此記事には多少の懸價があると思ふ。多少針小棒大の筆法かも知れない。然しながら、丸つきりない事實を捏造して書いたものとも思はれない。否な今日の教育の有様から考へて、確にあり得ること

思はれる。少くとも、將來に於て、之以上の事實の起り得ることは確に豫想せられるのである。して見ると、今日の教育に於ける缺陷と認むべき事柄は何であらうか、即ち、之等悲惨なる事實を結果した所の原因を究めて、之が救済の方法を講ずるは頗る急務であるといはねばならぬ。

或人は、以上の事實を以て、新舊思想の衝突だといつた。極端なる新思想が注入するに走つた女子教育の弊害だといつた。而して女子教育の間違つて居ることを論じて、大に女子教育家の猛省を促がした。蓋し、今日の女子教育の趨勢に考へ及ばす時は、確に之も一の原因と認められる。勿論教育といふものは、必らず、現代の開化、現今の時勢以上に理想を置いてかゝらねばならぬには違ひないが、然も、同時に、現時代に適合する所のものでなければならぬのに、無闇と理想ばかり高くして、尤で、現代の時勢を馬鹿にしてかゝるといふ様な思想を養成するものがあるとすれば、其結果は頗る危惧すべきである。理想は理想として高く持たせるのは無論必要であるが、然し、現代に於て種々實際上の事情のために、其理想を實現することは出来ないものだといふことも吞み込ませないで、矢鱈と新思想を鼓吹する時は、其理想はつまり空想となつて、世と調和することの出来ない頓狂な人間が出来るのである、時勢と調和させることを考へないで、無闇に極端な思想を注入する弊は大に注意しなければならぬのであつて、我が女子教育界の一部には或はこの傾向のあることも亦事實かも知れない。然しながら、たゞ現在の時勢と調和させるといふこと許りを考へて居ては、尤で進歩といふものがなくなる、發達といふことは望

めない、改良といふことも期し難い、時代が、全く完全なものならば知らず、今日の時代に於ては、進歩、發達、改良といふ必要は頗る大なのであつて見れば、矢張、新しい思想は絶えず注入して行かねばならぬ、教育といふことは、夫れ自身、進歩といふことである。

故に、たゞ新舊思想の衝突だといひ、新思想注入の弊だといつて仕舞つては、此事實を解釋するに、餘りに皮想であらう。今少し根本的に考を費すべき餘地があるではあるまいか。

吾人は屢々、人から、日本の教育は跛である、男子丈けが頗る高い教育を受けて居つて女子の教育は遙に後れて居る、之では國の進歩、社會の發達はとも出來るものでないといふことを聞いた。然し、今日、吾人の見る所に由ると、跛は跛だが、寧ろ反對の跛になつて來ては居ないかと考へる、前には右の足の方が長かつたのが、今度は反つて左の足の方が長くなつて居はしまいか、詳にいふと、今日の思想の上の教育は、女子の方丈けが進んで行つて反つて男子が之に伴はない。而して、男子教育の任にある人も、社會の人も一汎に之を認めて居ないのではないか、尙之を細しく言ふと、我國の女子教育は、専ら良妻賢母の養成を以て目的として居る。然るに、現今の男子の教育に於て、吾人は未だ、妻に對する義務を教ふるのを聞かないのである。未だ父としての責務を教ふるを聞かないのである。語を簡にして言ふと、女子には偏に賢母良妻を以て期し、事々に之を以て責むるにも係はらず、一方に於て所謂賢父良夫の語に一言も及ばざないといふのは、怪事殆ど之に過ぎるものはあるまい。

眞個の良妻賢母たらんがためには、相當の教育を受け相當の思想の進歩發達を要する。然るに男子の教育に於ては、以て之に配するに足る丈の良夫として、賢父としての思想の發達を遂げしむることを計らないで、たゞ自然の發達に放任して居るのみである。従つて、彼等は矢張り奴隸的服従といふ舊思想一派の考を以て之に臨むのである。普通の場合に於て、上中流の家庭の腐敗は多くは女性に對する男子の徳義心の缺乏から原因して居る。此の如き場合に於て、女性の之に耐へ得る力は、寧ろ思想の發達しない者の方が遙に強いからして、加様な男子に配するには、矢張、今日の女性では不可ないのである。以上の見地から見ても、多くの中には勿論近代の思想とかけ離れた突飛な教育を施して居るものもあらうけれども、大體からいふ時は、何も女子に極端な新思想を吹き込んで、夫がために、離婚の悲惨が多いといはうよりも、寧ろ、男子の思想が、現今の開化よりも遙に後れて居るのであつて、女性に對する男子の貞操、子に對する父としての責務を十分に自覺せしむることが、頗る急務でなければならぬ、女子の思想が新しいのでなくつて、寧ろ男子の思想がまだ餘程時代後れであるので、此點に關して吾人は女子教育者に猛省を促すよりは、寧ろ男子教育の任に當るものが、宜しく大に三省しなければならぬ所だと思ふ。

(牧 羊)